修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町1-17-1（NK第一ビル）☎03(5259)0631
振　替　00160－7－36337

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

これからの修学旅行のヒントに

「全国　国、公、私立高等学校修学旅行実態調査報告書」刊行

学校週五日制の完全実施等　教育課程審議会は、学習指導要領の抜本的な改訂に向け動きだしている。このような時、明治以来一〇〇余年の歴史を持ち教育的遺産として継承されている日本固有の修学旅行も変換を求められている。修学旅行の人間形成における教育的意義を今一度問いなおし生徒のニーズを的確に把握し、各学校の創意と工夫に満ちた新しい修学旅行の創造が急がれる。

当協会は平成八年度に実施された全国の国・公・私立高等学校修学旅行の実態を調査した。今回実施した調査は、全国五、五〇四校の中から一、三六四校を無作為抽出し、回答率六七％九一二校の回答を基に集計した。

調査結果についての主な項目から・

修学旅行の実施状況・修学旅行のねらい・修学旅行以外の校外学習の実施状況・旅行傷害保険加入と給付状況・旅行先・宿泊地・見学、学習の場所・班別自主活動の実施状況・体験学習の実施状況・スキー実施状況・交通機関別利用状況・海外修学旅行その他修学旅行に対する意見。参考資料として―地方別修学旅行対象生徒数の推移、修学旅行に関する通達。調査結果の中で海外修学旅行についていくつかを紹介したい。

訪問先ベスト一〇

一―韓国　二―中国　三―シンガポール　四―台湾、オーストラリア　六―ハワイ、カナダ、マレーシア　九―米国本土　一〇―フランス

訪問国は近隣諸国の韓国を筆頭に中国、台湾と続く。東南アジアのシンガポール、マレーシアへの修学旅行が今後の旅行先として脚光をあびることが予想される。特にマレーシアは親日的で治安もよく、自然環境にもめぐまれている。現地の高等学校との国際交流、ファームステイ、ホームステイも可能である。

実施時期

十月、十一月、三月、十二月、九月、六月、八月、七月、五月、四月の順

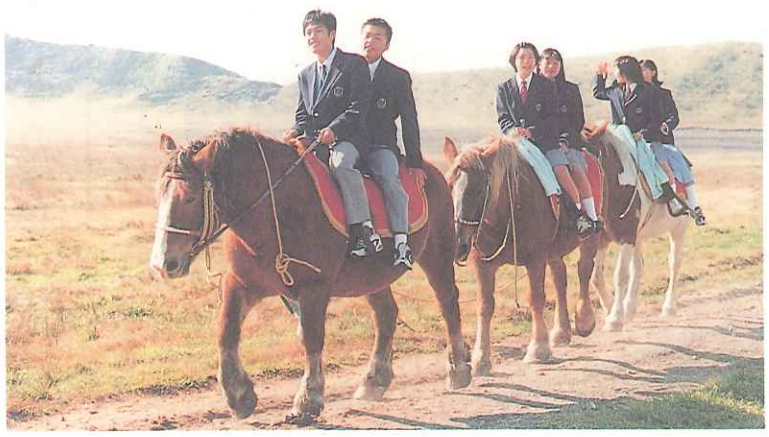
夏期休業中に海外修学旅行を実施した学校が九校ある。これらの学校では修学旅行をどう教育課程に位置付けるのか検討の要があろう。

なお、この報告書は冊子にまとめられ二月下旬に刊行される。

頒布予定価格一、〇〇〇円

注文は全修協・本部まで

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町一―十七―一



草千里浜で乗馬を楽しむ

―主　張―

修学旅行研究の成果と課題

本部事務局長　鴻田　好通

全修協の今年度の主な修学旅行研究事業の成果は以下のようにまとめられる。

一、「京都修学旅行を考える懇談会」

京都仏教会や京都府仏教連合に加盟する二十五か寺と関修委・全修協との懇談会として9・7・28ホテルサンフラワー京都で開催した。これは、長い修学旅行の歴史においても初めての試みである。京都を訪れた修学旅行生は関修委関係だけでも年間一四・七万人に及ぶが、その全てが何らかの形で寺院見学をしている。現在の班別自主行動を寺院方がどのように受け入れているか、生徒の様子や学校側の指導についての情報交換、相互の要望等について話し合った。寺院は教育の場という共通認識にたって話し合った意義は大きく、今後の継続開催を確認した。心の教育や事前・事後の学習など学校側と受入れ側とで話し合う場として極めて重要と考え今後一層の充実を期したい。

二、「修学旅行セミナー」

第十二回として9・9・18大阪で開催した。全修協セミナーの特色は全修協が基調提案をし学識経験者を講師として修学旅行の理論的研究を深めることにある。平成八年度からはシンポジウムを取り入れ、学校長の立場から理論と実践の研究を深めている。今年度は、小・中・高等学校長が「学校週五日制とこれからの修学旅行」をそれぞれの立場から提言し、コーディネーターによる的確なまとめを得た。基調提案では、これからの修学旅行に「環境学習やボランティア活動」を取り入れていく方向を提案した。このようにセミナーは常に先を見越した課題を提起し、理論的研究の場としているが、今後ともこれを基本として更に充実を期していく。

三、「全国修学旅行研究大会の開催」

第十四回として9・11・28浦和市に於いて三地区修旅連と共催した。二つの中学校の実践発表、活発な研究討議、指導講評、文部省・特別活動担当官の講演と相俟って充実したものとなった。既に修学旅行の実践研究発表の場として定着しているが、修学旅行そのものだけでなく、三年間の積み重ねの過程やそれを包む学校・地域・保護者の在りようまで浮かび上がってくるので、修学旅行の担当者にとっては学ぶことの多い研究会となっている。今後、修学旅行の実践発表の場としての諸条件の充実に努め、優れた実践発表の場として修学旅行の質的向上に寄与していきたい。

四、「完全学校週五日制実施に伴う修学旅行にかかわる調査」

完全学校週五日制へのプログラムが発表されてはいるが、切実感は今一歩という感じがある。全修協は関修委とともにこの課題に積極的に対応するため専門部会を設置し、基礎資料として校長の受け止め方を調査した。東海地区、近畿地区にも拡大し合計一、七〇五校の回答を得た。この種の調査としては他に例はないものと思われる。関東地区の結果については、今年度中にまとめる予定である。

教育研究財団としての全修協の課題

以上の研究諸事業は言うまでもなく教育改革の流れを踏まえて進めてきたものであるが、全修協の研究財団としての課題は、教育改革の諸課題を学校教育との密接な連携のもと、特に修学旅行の理論的研究を実践的研究と一体化していくことにある。そういう意味で常に理論的研究を深めそれを基に学校教育へアプローチしていきたいと考える。

「体験を重視し、生きる力を育成する修学旅行」を主題に

第12回近畿地区中学校修学旅行研究大会

第十二回近畿地区中学校修学旅行研究大会（主催・近畿地区公立中学校修学旅行委員会・財団法人全国修学旅行研究協会、後援・近畿二府四県教育委員会、大津市教育委員会）が、十二月五日午後一時半から、滋賀県大津市生涯学習センターで開催され、近畿二府四県から約二百名が参加、滋賀県・京都府二校の実践研究発表、研究協議の後、滋賀県教育委員会の指導助言が行われ、四時半盛会のうちに閉会した。

大会は、高橋茂運営委員（大津市北大路中校長）の司会で開会、主催者を代表して、新谷紀久男会長（彦根中校長）、前田寛全修協理事長代行があいさつ、来賓として青木孝之滋賀県教育委員会指導主事から教育長の祝辞が述べられた。

研究実践発表は、大会主題「体験を重視し、生きる力を育成する修学旅行」に基づき、①京都府長岡京市立長岡第二中学校・吉川祥子教諭「個に応じた体験学習を取り入れた修学旅行」②滋賀県大津市立粟津中学校・浦谷政之教諭「ぐるっと二〇〇―自ら計画する修学旅行を求めて」の二校。

長岡二中は体験学習を屋内、屋外とも各四種目を設定し、生徒個人に選ばせて生徒の意欲を高め、粟津中は個人選択、班、学級、学年単位と、集団に応じた責任の果たし方を中心に、三年間にわたる取り組みの発表がなされた。

研究協議では、東野雅己（富田林市明治池中校長）柴田隆生（川西市多田中校長）両氏を座長に、教育的意義、自主研修の問題点と進め方などを話合い、滋賀県教育委員会学校教育課・青木孝之指導主事から、両校の取り組みが実態に即し、三年間の積み重ねであることを評価すると共に、自主性、体験学習について、教師の姿勢や学校の吟味が重要であるとの適切な助言がなされた。

最後に井上昭男副会長（兵庫県西宮市立塩瀬中校長）の閉会のあいさつで、大会の幕を閉じた。

なお研究実践発表は三月号に掲載予定。

風紋

二月三日は節分、そして四日は立春。古来節分は、陰暦の四季の変わり目（節気）の前日を示す日であったのが、いつの頃からか正月行事の一環として春だけが重んじられるようになった▼節分の夜の行事となっている「豆撒き」は、古くは農家の除災招福を願う行事であった。また平凡社世界大百科事典によれば、平安時代に大晦日の夜、宮廷で行われていた追儺の行事が、江戸時代以降、社寺の行事として復活し一般化したものという▼追儺は中国では最も古い起源をもつ民俗行事であり、我が国では、文武天皇の慶雲三年（七〇六）、疫病が流行して多くの百姓が死んだ年の晦日に、鬼やらいをしてその鎮静化を祈ったのが初めという▼追儺式として有名なのは、法隆寺の修二会の納めとして二月三日行われるものと、奈良薬師寺の花会式の納めとして四月五日行われるのがある▼立春は陰暦の二十四節気の一つで、一年の初めの日とされ、八十八夜・土用・二百十日など農耕にかかわりの深い時候の節目の日を教える基準の日とされている▼ちなみに図説大歳時記では節分は冬、立春は春の季語としていずれも時候の部に分類されている。「春立つ」といえば、万物が華やぐことを思わせるが、「節分の何げなき雪ふりにけり」「立春の雪のふかさよ手まり唄」ということで、実際はこれからの寒さこそ本番。「真っ白き障子の中に春を待つ」といった心境である。（前）

教育の窓

教育課程審議会の「中間まとめ」を読んで

全修協　事務局長　鴻田好通

一　改善の基本

教育課程審議会の「中間まとめ」が示されてから、三か月が経過した。教育課程の基準の改善のねらいは、①豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚　②自ら学び、自ら考える力　③ゆとりある教育活動の中で、基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育　④各学校の創意工夫と特色ある教育　を中心とするものであった。

各学校の先生方も、各人がそれぞれの思いをもって、受け止めたことであろう。

これらを、従前の教育課程の改訂と変わらないと見るのか、表面的には変わらないが、完全学校週五日制をはじめとした社会の変化や今後の動向などが背後にあると見るか、あるいは、各学校の自主性が重んじられ、多くの点が委ねられたことを良しとするのか、いやそれではなかなか学校は対応できないと言うのか、それぞれであろう。いずれにせよ、「中間まとめ」とは言え、各学校はそのねらいの具現のために、今から準備をはじめることが必要であろう。

今回のまとめは、各学校の創意工夫と自主的な教育活動の一層の展開を期待したものと考えられる。

このことは、各学校や教師一人一人の力量が問われていることでもある。

そのため、各先生方の「中間まとめ」への思いはそれぞれであっても、「改善のねらい」を基本に押さえ、主な改善点を的確に把握して、どの体験的な学習、問題解対応を考えなければならないと言える。

二　主な改善点

完全学校週五日制に伴い、年間授業時数を現行より週当たり2単位時間減らすとともに、各学校が創意工夫した教育活動を展開できるように、教育課程の基準の大綱化・弾力化を図ったことがある。

また、教育内容を発達段階に応じて、読、書、算など日常の社会生活に必要な基礎・基本に厳選し、その確実な習得を図るとともに、どの体験的な学習、問題解夫して実施するための「総合的な学習の時間」（各学年年間70単位時間以上）を創設したことである。そこでは、自然体験、ボランティア活動、ものづくり、生産活動、実験・観察、調査など

「選択学習」の要素を大幅に取り入れて、個性の伸長を目指したこともある。

特筆すべきは、国際理解・外国語会話、情報、環境、福祉など横断的・総合的な学習を各学校が創意工夫して実施するための「総合的な学習の時間」（各学年年間70単位時間以上）を創設したことである。そこでは、自然体験、ボランティア活動、ものづくり、生産活動、実験・観察、調査など

決的な学習を重視している。

その他、中学校では、外国語（英語）を必修とし、「聞く、話す」教育に重点を置くことや、技術家庭科の「情報基礎」を必修としている。高校では教科「情報」の新設がある。

道徳教育については、学校教育全体を通じて体験や実践的活動を重視し、ボランティア体験や自然体験などの学習を大切にし、社会生活上のルールや基本的なモラルなどの倫理観を培うこととしている。

これらの改善点が示された理由を各教師がじっくりと考え、今後の教育実践に生かす必要がある。

三　教師が変わること

今回の教育家庭の基準の改善のためには、各教師の意識改革が必要条件となる。

一単位時間の弾力的扱いをはじめ、学習形態や指導体制（T。Tや外部の人材の協力など）の工夫、時間割や日課表などの弾力化、中学校の選択履修の幅の一層の拡大、教科等の枠を越えた総合的な学習の展開、画一的ではない特色ある学校作りなど、どれを見ても従来のやり方から脱却し、発想を変えなければ効果的な対応ができないものばかりである。

これらの実現のためには、先ず各学校が校長の指導の下に、意識を変え積極的に取り組む必要がある。既成の概念を打ち砕いて、新しい教育の創造を目指した各人の創意工夫が求められているものと考えられる。

――修学旅行生の作文――
〈心に残る修学旅行〉

◎　祈り、研修、善意の旅
◎　平和祈念、班別研修　そして善意の花

愛美学園美濃加茂高等学校　白木健一

僕たち四一七名は、事前学習を充実させ、学校で大切にしているボランティア精神も心で踏まえながら、班別自主研修を中心に据えた修学旅行を実施した。

（中には、文化祭とつなげて意図的、持続的に取り組んできた学級もあった。）

◆平和への祈り

二A一学級の修学旅行は九月の文化祭への取り組みから本格的に始まった。

担任の先生の熱い思いを全員で受けとめて、平和への祈りを込めた長崎「平和記念像」の模型製作と「千羽鶴」を折ることに熱中した一か月は二A一に充実した時の流れを生みだした。

平和祈念像は文化祭当日の朝に完成され、千羽鶴は当日の夕方までに折り上げられて、教室展示に彩りを添えたが、その千五百羽を超える千羽鶴は、修学旅行の第二日、学級全員の手で長崎の平和祈念像に納められ、平和への祈りを込めた二A一の心は長崎に届けられたのである。

◆班別自主研修

第二日、原爆記念館を見学した後、班別の自主研修に移った僕達は、それぞれの班のテーマにそって、数々の名所史跡を巡りながら長崎の地の過去と現在、そして未来を肌で感ずることができた。

例えば、二C一の今瀬さんの班では、「異国情緒あふれる長崎を単に見て歩くだけでなく、大浦天守堂や浦上天守堂などの建物の観察を通して仏教とキリスト教の違いを考えてみようと思った」としながら「実際に訪れてみると、お寺の重々しくて近づき難い雰囲気と違って、教会の建物はカラフルで明るく、親しみやすい感じでその日も沢山の人々が集まって来ていて、開放的な印象を受けた」（坂井さん談）と語りながらあれこれと気づいたことや感じたことを話してくれた。

こうして、この日はどの班も有意義な自主研修を実施することができた。

◆善意の花

僕達の学校では、本年度の重点にボランティア活動を掲げ、「小さな親切、ささやかな善意」を合い言葉にして取り組んでいるが、修学旅行先でもその姿勢を大切にしてきた。

その結果、例えば自主研修の途中で出会った老人の話し相手をしてあげたり、全校で展開している使用済みテレカを旅行先でも集めたり、来られなかった友人に手紙を出したり、班になじめないで苦しむ友の悩みを聞いて励ますなど、身近なところで様々な善意の花を咲かせることができた。

（旅行行程概略）

10／21　学校―名古屋―博多―福岡市博物館―博多泊

10／22　博多―長崎（班別自主研修）―小浜泊

10／23　小浜―ハウステンボス（自由見学）―阿蘇泊

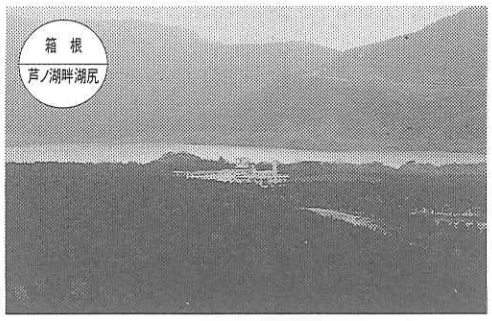
10／24　阿蘇山―アフリカンサファリー―別府―さんふらわあ号（船中泊）

10／25　大阪南港―学校

文化祭に展示した作品

大浦天守堂にて

ハウステンボスにて

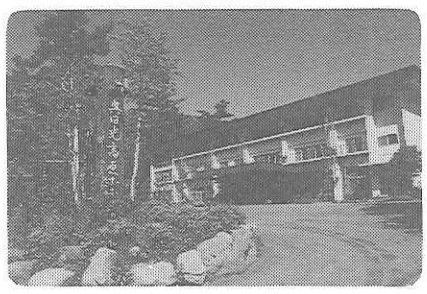


豊かな自然が息づく湖尻高原の中心。
箱根高原ホテルは、深い緑の中に
700名収容の大ホールや、
中小の研修室など、
数々の施設が整っています。
その他体験コースもいろいろ。
心にのこる想い出づくり
感動づくりに素晴らしい環境です。

湖尻高原の大自然に抱かれて
ハートフル・コミュニケーションをお約束します。

箱根高原ホテル
〒250-0500 神奈川県足柄下郡箱根町湖尻
☎(0460)4-8595㈹　FAX.(0460)4-9488

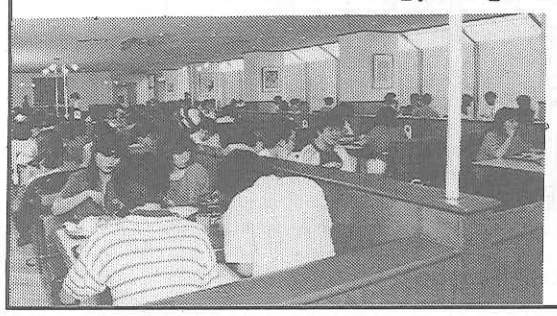
●修学旅行／林間学校／スキー体験学習
奥日光の自然と仲間たちとの語らい……



夏は林間学校、冬はスキー
自然探勝の基地として日光国立公園
内にたつ当ホテルをご利用ください
鉄筋3階建／小学生550名／中学生550名／
高校生450名収容／大浴場あり

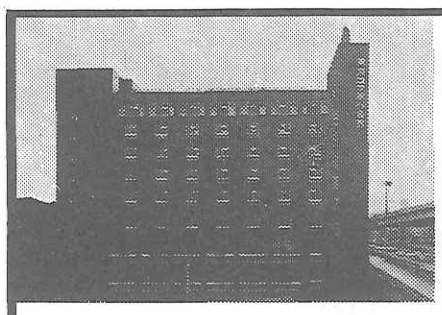
奥日光高原ホテル
〒321-1662 栃木県日光市湯元温泉
TEL. 0288(62)2121(代表)

――修学旅行の楽しいお食事――
箱根 彫刻の森 美術館内
レストラン コンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。

〒250-0407
神奈川県足柄下郡箱根町
二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL(03)3585―1046(代表)

東京 コマ旅行会館